

市長定例記者会見

冒頭説明

市長定例記者会見【令和5年第3回定例市議会】

【フリップ1】

【フリップ2】

はじめに、北斗市では、第9期の高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の更新作業をすすめているところですが、国の推計による全国の介護職員の必要数は、2025年で約32万人不足し、2040年には約69万人不足するとしています。

保育人材についても全国の有効求人倍率は昨年10月時点で約2.5倍と高い水準で推移しており、人材不足が続いています。本市も例外なく介護・保育分野の人材不足が喫緊の課題となっています。そこで、市では介護・保育分野の人材確保を目的に、必要な措置を講じて参りたいと考え、独自の事業を来年度に創設したいと考えております。私がかねてから、人口減少や少子高齢化が進展し、必要な人材が集まらないといった共通の課題を抱えている近隣の函館市や七飯町と、同じ生活圏域で人材を奪い合うことなく協力し合い、首都圏から人を呼び込むことによって、就労の定着と人口流出を防ぐことができれば、北斗市・函館市・七飯町に限らず、道南全体の経済の安定にも寄与すると考え、近隣の首長さんには「事務レベルで調整させてほしい」ということをお話しさせていただいておりました。今回、事業創設にあたり、事前に函館市と七飯町には、本市が取り組もうとしている新たな人材確保策の概要を説明させていただいたところです。

新たな事業の概要につきましては、新年度の予算編成までに具体化したいと考えております。

人口減少や少子高齢化への対策は国を挙げて取り組んでいる問題であります。市の対策のみでは限界がありますが、これまで実施している事業については、内容を充実し継続するとともに、新規事業を実施することとで、子どもや高齢者、全ての世代が住みやすい環境を引き続き整備していきたいと考えております。

【フリップ3】

次に、北斗市では令和2年度から、若手職員でつくる市内行革プロジェクトチームによる市長への政策提言事業を実施しており、今回で3回目となります。主要な目的は、若手職員の目線による奇抜なアイデアや発想などから、より、効果的で効率的な行政運営に繋げることで「事業の選択と集中」を図るほか、提言過程における課題の発見や分析、情報収集や、部署を跨ぐ横断的な連携などから、多様な業務に必要なスキルアップも期待しているところです。

【フリップ4】

今回のメンバーは9名で、昨年7月から本格的に議論を交わし、テーマの検討や絞り込みから着手し、方針や方向性を決定しながら、全部で12回に及ぶ全体会でお互いのテーマの内容など

について意見交換を重ね、8月1日には、3つの提案事業を市長プレゼンという形で実施しております。今後の予定ですが、若手職員との意見交換などを経て、9月下旬を目途に提案事業に対する方針や方向性を決定する予定です。

【フリップ5】

次に、新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行し、昨年度と比較すると大幅に観光入込者数や各施設の利用者数が増えています。そういった中で、新函館北斗駅に隣接する、みなみ北海道の食・文化・魅力を発信する商業施設、北斗市観光交流センター別館「ほっくる」に、ハンバーグなどの洋食を提供する飲食店「サウスウエーブ」が8月11日にオープンしました。

「ほっくる」には、今まで飲食店が1店舗しかなく、利用するお客様から飲食店が少ないとの声が多くあり、利用するお客様にご不便をお掛けしておりましたが、この出店により、お客様の利便性が向上するのではないかと考えております。

「サウスウエーブ」の営業時間は、午前11時から午後7時までで年中無休となっております。「ほっくる」へお立ち寄りいただき、是非ご利用いただければと思います。

【フリップ6】

また、本市の観光振興の最大の課題であった「体験型観光」の促進を図るため、令和2年度から北斗市観光協会や市内の事業者と連携しながら「着地型観光担い手事業」を実施しております。昨年度までは、市が主体となり観光資源の掘り起こしやプログラムの検討、モニターツアーなどを行い、体験型観光の商品化に向けて準備を進めてきたところであります。本年4月からは、北斗市観光協会が主体となって本格的に商品を作成し、今まで約30の商品を販売したところ、合計81件、131名の方にご利用いただいておりますが、まだ販売数が少ない状況ではあります。

今後の商品展開として、北斗市の特産品である「ホッキ貝」の突き体験や、「いくら」のお土産が付く「さけ」の捌き方体験など、北斗市ならではの体験商品販売していく予定となっております。引き続き、多くの方々に利用いただけるよう、魅力的な商品作成に努めていただければと考えております。

【フリップ7】

次に、「中学校統一制服購入費助成制度」についてお知らせいたします。

はじめに、「中学校統一制服」の概要について申し上げますと、本市では、誰一人取り残さない社会の実現をめざすSDGsの理念に基づくまちづくりを推進しており、この一環であるとの考えから、本年4月より「パートナーシップ宣誓制度」をスタートしております。この「パートナーシップ宣誓制度」は、性的マイノリティの方々が抱える困難の緩和や家族・友人関係の改善が図られる一助になること、また、地域社会における性の多様性への理解が進むことを願い、その第一歩として取り組むものであり、本年3月15日に「北斗市 性の多様性を尊重するまち宣言」を行っております。

教育現場においても、この宣言の趣旨を踏まえた取り組みを行うべく、令和6年4月より、市内中学校の制服を統一、制服のブレザー化を実施することとしております。

「中学校統一制服」を実施するにあたり、妊娠・出産から育児、子育てまで切れ目のない施策を展開する中での一つの方策として、生徒保護者の経済的負担の軽減を図るため、制服購入費の一部につきまして、支援を行うことを決定しました。

助成制度の内容につきましては、詳細が決まり次第ご報告させていただきます。

【フリップ8】

最後に、北斗市津波避難計画の見直しについてでございます。

市では、日本海溝・千島海溝沿い巨大地震の被害想定を踏まえ、防災上、緊急性を要する施設等の整備に向けて、各種防災計画の見直しを進めておりますが、この度、北斗市津波避難計画の改訂案がまとまりました。図にある七重浜から富川の間を例にとりますと、津波到達時間が約10分短くなるとともに、最大津波高も2～3m高くなり、これまで避難目標ラインとしてきた、高規格道路・国道227号を超える浸水想定となっております。

【フリップ9】

このことから、市では、避難対象地域及び避難目標の見直しや、新たに避難困難地域を指定するなどした「北斗市津波避難計画の改訂案」を取りまとめたところであり、9月1日から9月30日にかけて、パブリックコメントを実施しますので、是非、多くの皆様にご覧いただき、ご意見をいただければと思います。

以上で、私からの説明とさせていただきます。

質疑

*以下、質疑答弁については簡略化。

詳細については、市公式HP上にアップしているのでそちらをご覧ください。

URL <https://www.city.hokuto.hokkaido.jp/docs/15136.html>

■北海道新聞 星記者

補正予算案について、環境対策費の照明器具更新に係る工事費の追加予算について詳しく教えてください。

○財政課 新川課長

当初予算で4施設の実施設計を行い工事費が確定したため、予算計上した。

■読売新聞 高橋記者

環境対策費の照明器具更新に係る工事費について、具体的にどういったものに対する費用か？

○財政課 新川課長

蛍光灯,水銀灯などをLEDにするもの。

■読売新聞 高橋記者

当初予算で組まれているものだが、違いは？

○財政課 新川課長

当初予算では実施設計分を計上。実施設計で工事費が確定したため、今回、工事費を計上した。

■北海道新聞 星記者

北斗市、木古内町でトライアスロン大会をやろうと活動している団体があるが、北斗市ではいかがか？

○企画課長 池田課長

トライアスロン連合で計画している話だと思うが、トライアスロンというかアイアンマンレースということで競技時間が長く相談を受けているが、市として地域も含めお答えし、競技団体に検討していただいている状況。

■北海道新聞 星記者

結論は出すのはいつ頃か。

○市長

質問に対して、結論を出すというわけではない。例えば、毎週のように北斗市の運動公園では、少年野球大会など様々な大会が行われていて、市の施設を使わせて欲しいと要望があり、空いていればお貸しできる。今回はトライアスロンではなく、あくまでもアイアンマンレースなので、非常に長い時間、通行止めにならなければいけないなど、市民生活に影響がある。そういった課題をクリアしていただき、そういった中で、主催する方が北斗市で主催したいというならば、それはそれでいいと思っている。

■読売新聞 高橋記者

津波の避難計画について、修正された場合、計画はいつ頃実施か？来年度か？

○総務課 前澤課長

津波避難計画の見直しをしていて、市では海溝沿い巨大地震の被害想定など踏まえ、緊急的に必要な施設の整備など国庫補助などを活用してやっていきたい。その前段で、市の計画も直近の状況に見直ししていくため、防災上の最上位計画である北斗市の地域防災計画と津波避難計画について、9月1日からパブリックコメントを実施して、その内容を踏まえ、適宜修正しながら確定していく。確定したら、町内会自主防災組織や学校など、関係する方々に具体的な内容を説明し

て避難の計画を立案してもらおう。

ハザードマップは先行して配布しているので、どこまでのエリアが浸水するかはみなさんご存知だという認識である。

■読売新聞 高橋記者

市長に伺いたい。先日、函館の大泉市長が新幹線の函館駅乗り入れについて、北斗市や七飯町と新たな枠組みが必要ではないかと話があるが、北斗市として枠組みに参加する可能性はあるのか。

○市長

新聞報道でしか見ただけなので、具体的な内容はここで申し上げられないが、今の質問に対しては、函館市からは何もきていない。中身が何もきていないので、私からはどうお答えしていいのかわからない状況。函館市から北斗市に対してのアクションは何も起こっていない。

■函館新聞 野口記者

スポーツ合宿の受け入れ状況について、11月と3月の雪の多い時期の受け入れ競技は何か？

○観光課 協課長

冬季期間であればバスケットボール、春の雪解けの時期は、野球の受け入れである。

○市長

例えば私が冒頭、介護職・保育職に関しまして人材がなかなか集まらないという話をさせていた。それについて、市独自の取組みを考えている。これに関しては、函館市、七飯町も同じ悩みを抱えているということで、事務レベルで、できれば3つのまちが統一して似たような事業ができればいいと進めている。具体的に聞きたいことはないか。

■NHK 毛利記者

3つの地域でということだが、来年度函館市で実施する内容に合わせているのかと考えるが、これ以外に七飯町も含め、現段階で考えていることがあれば教えてほしい。

○民生部 深田部長

今回は、介護職と保育職について2市1町、事務レベルで協議をしている。その間、どういったことができるか必要なものがあれば協議をすすめていく。現時点では、具体的な内容はない。

■NHK 毛利記者

今、事務レベルでという話であったが、例えば市長同士、町長ともそういった場を設けて話し合っていくということか。

○市長

函館市長、七飯町長と会う機会があるので、そういったときには、一緒にやればという話をしていきたい。この制度、来春から実施していきたい。その場合、今年の 11 月くらいまでには固めていきたい。次は、具体的な内容をお伝えできるのでは。今は準備段階。最終的には、市長、町長3人が集まって、方向性を示したい。

■読売新聞 高橋記者

先ほどの介護事業の関係で、今年の11月までに固めていきたいということだが、12月の定例会で補正予算を出したいということか。

○市長

12月の補正予算か、来年3月の第1回定例会に出すのか、いずれにしても来年度のある程度の予算を固めていくのは9月末から進めているので、11月にはある程度の方向性を固めたいと思う。そうしないと第1回定例会に予算提案が間に合わないのでは、判断としては、11月中にはしたい。

■高橋記者

少なくとも来年度からは始めていきたい。

○市長

そうゆう考えであります。

■函館新聞 野口記者

中学校の統一制服について、新1年生を対象に順次、入れ替えていくということか。

○市長

中学校統一制服に来年4月からします。今、北斗市には5つの中学校があり、全ての学校の制服が違う。これに関して、性的マイノリティの関係もあるので、ブレザーにして下はスカートもズボンも選べるという状況で、そうした方々に対して配慮が必要である。また、一部の学校からは制服を見直したいという話もあった。それであれば市内の中学校の制服を統一する。市では、違う学校に移れる特認校制度もあり、その場合、制服を変えなくてもいい。正面につけるワッペンを変えなければならないが、負担を生じないようにしたい。ただ、例えば生徒の中でご兄弟がいたり、知り合いから制服がもらえるという方がいたり、制服を統一することによって、新1年生は、制服を確保できない、享受

できないということがある。それを含めて全体の子育て支援、負担を軽減するために統一の制服を一部、市が助成して負担軽減に努めたい。当然、新1年生からだが、新1年生だけでいいのか、次の1年生も必要なのかは、今年の11月くらいまでには、助成の内容も含め判断していきたい。いずれにしても何らかの支援をしていきたい。

